

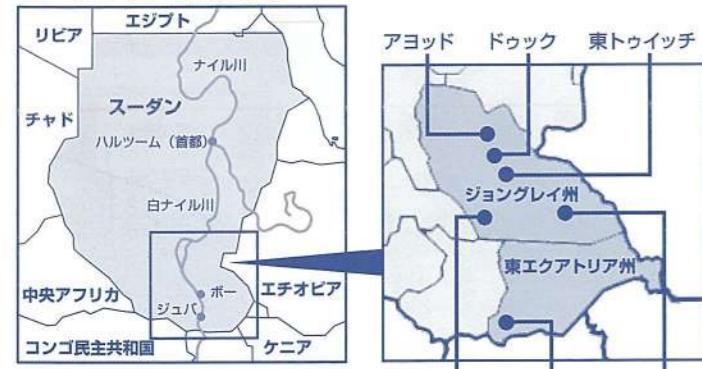


## 遠隔地になるほど厳しい条件に

PWJの南スーダンでの井戸建設は、事務所のあるジョングレイ州都のボー近郊から始まり、順次、支援地を広げてきました。2009年から10年にかけての乾期は、新たに東エクアトリア州マグウェイ郡とジョングレイ州ピボール郡での建設に取り組み、4月までに合わせて26本を完成させました。

井戸の深さと水量を郡ごとに平均すると、初期に多くの建設したボー郡や東トゥイッヂ郡では比較的浅く水量も豊富なのに對し、遠隔地になるにつれて深さは次第に深く、水量は少なくなっているのが分かります。なかでもピボール郡は、水量がボー郡や東トゥイッヂ郡の約10分の1。事務所からのアクセスだけでなく、地質の条件もきわめて厳しい地域といえます。

### 〈スーダン井戸事業地図〉



### 〈郡別の井戸の深さと水量〉

郡名	建設年と本数	平均深さ(M)	平均水量(ℓ/時)
ボー	2006-07 21本		
	2007-08 20本	65.5	9366
	2008-09 10本		
東トゥイッヂ	2006-07 16本		
	2007-08 1本	65.0	10323
	2008-09 5本		
ドゥック	2006-07 2本		
	2007-08 2本	66.3	6133
	2008-09 2本		
アヨッド	2007-08 15本	81.8	2502
	2008-09 11本		
マグウェイ	2009-10 11本	82.3	1855
ピボール	2009-10 15本	92.8	963

## 道路や建物の建設着々と、鉄道計画も

南スーダンでは道路をはじめとする社会資本の整備が遅れ、復興の足かせになっています。しかし、都市部に目を向けると、国連や各国政府の援助資金が注ぎ込まれ、道路や建物の建設が着々と進んでいます。南スーダンの「首都」のジバでは、ほんの1年前まで多くの道路が土のままでしたが、すでに主要道路のほとんどが舗装されました。

水資源が限られているにもかかわらず、交差点には直径10メートルほどの立派な噴水もあります。電気ポンプで水を循環させているようですが、その電気も供給不足で一日に何度も止まります。投資の優先順位が少しずれているかな、と感じところです。

政治にも変化があり、2005年の和平合意に基づいて、24年ぶりの複数政党による総選挙が4月に行われました。ジバでは「政権党が開票結果を操作した」などの噂が飛び交いましたが、生まれて初めて投票した人も多く、「自分たちの手で政治を決める」という高揚感に包まれました。南スーダンの独立の是非を問う住民投票も2011年1月に予定されています。

今年3月には、エチオピアからケニア、そしてジバを経由しウガンダに至る鉄道の建設設計画が発表されました。この路線が開通すれば、低コストで食糧などの物資を運ぶことができ、経済の発展が見込まれます。旅客列車が走るかどうかは今の時点で分かりませんが、近い将来、鉄道で南スーダンを旅行できるようになるかも知れません。（スーダン駐在・坂本陽平）

## 【故障しないよう丁寧に使う】 デュラ村のメリーさん

ピボール郡のデュラ村に住むメリーさんは、3人の子を含む7人家族。一家が1日生活するにはボリタンク8個分（約160リットル）の水が必要で、毎日1キロ以上離れた隣の村まで水くみを行っていたそうです。「母と一緒にきましたが、井戸が込み合っているときは、よそ者の私たちには水をもらえないこともあります」。そんな時は仕方なく川の水を使いますが、川には牛などの動物が出入りしているため、下痢などに悩まされたことも多いそうです。

4月、PWJの井戸がデュラ村に完成し、メリーさんは井戸管理委員会のメンバーに選ばされました。ピボール郡では、PWJの井戸の「標準仕様」である動物よけのフェンスが巡らされているだけでなく、人が勝手に使わないようにフェンスに鍵が取り付けられているのをよく目にします。デュラ村でも午前7時から10時と、午後3時から9時を井戸の使用時間と決め、最寄りの家に住んでいるメリーさんが母親と交代で鍵の開け閉めをしています。

「かつて私たちがしていたように、隣村からも水くみの人が来て、毎日50人ぐらいがこの井戸を使っています。故障しないように、みんなで丁寧に使っていきたいです」。少し恥ずかしそうに、管理委員としての意気込みを語ってくれました。

## 事業が民族の融和に役立つことを願う

スーダン駐在・高橋亜友子

日本の2倍の広さがある南スーダンには、異なる言語を使い異なる社会を形成するたくさんの民族・部族が、時に散らばり、時に寄り集まって住んでいます。穏やかに共存する地域もありますが、一度いさかいが起これば大きな抗争に発展しかねません。「村が襲撃され、牛が300頭盗まれ、抵抗した村人が7人死んだ」「報復として別の牧場が襲われた」などの事件は日常茶飯事です。

ジョングレイ州の州都ボーはディンカ人が居住する地域であることもあり、PWJボー事務所の現地スタッフもディンカ人が大半を占めます。一方、道路・セキュリティ状態の良くない辺境に位置するピボール郡は、彼らディンカ人からみると、牛をめぐってたびたび抗争を繰り返してきたムルレ人の居住地域。「ムルレ人が攻撃的な態度をとってきたらどうしよう」。現場に赴く前のスタッフは不安そうでした。

ところが、事業を始めるに当たってピボール郡に入ると、待っていたのは復興支援を喜ぶムルレ人の温かい歓迎でした。現地スタッフはホッとすると同時に、民族間のしがらみを越えて立派な井戸を完成させようという意気込みが、腹の底からわき上がるのを感じたそうです。「PWJで働いていなければ、ムルレ人の土地で復興に携わることなど考えられなかった」。そう口々に話すスタッフを見ると、私たちの事業を通じて他民族への敵対意識や偏見が薄れ、融和が進むことを願わすにはいられません。

## ハイチ地震緊急支援

### テント・がれき撤去道具を配布

1月に起きたハイチ地震に対し、PWJは直後から被災状況やニーズの調査を行ってきました。その結果、テントやがれき撤去道具の配布が必要と判断し、3月には被災者への配布を始めました。

PWJは通常、支援物資を被災地のなるべく近くで調達します。しかし今回、テントはハイチ国内や周辺国で手に入れることができ難しかったため、日本で災害支援用に備蓄していた450張を船で輸送しました。4月末までに400張の配布が完了。すでに雨期を迎えた被災地では、「これで雨が降っても安心」といった喜びの声が聞かれました。

がれき撤去道具は、スコップ、つるはし、一輪車などの工具と手袋やマスクをセットにしたもの。被災者が崩れた自宅のが

れきを片付けられるよう、1000セットを用意しました。

これらの物資配布と並行して、学校の再開支援にも取り組んでいます。首都ポートオブランズ周辺では約9割の校舎が全壊したと言われています。4月末現在、PWJは支援の届いていない小規模の学校3校でがれき撤去作業を始め、仮設教室の設置と学用品や教員用品等の配布を行っています。

※PWJのスーダン支援事業およびハイチ支援事業は、支援者のみなさまからの会費・寄付のほか、ジャパン・プラットフォームなどの協力も得て進めています。



PWJが被災者に配布したテント



がれき撤去道具の配布の様子

## PWJの活動にご協力ください

### 【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等を明記してください。

※ハイチ地震の被災者緊急支援は、5月現在は継続中ですが、終了時期は未定です。事業終了後にハイチへの寄付をいただいた場合、PWJの活動全般へのご支援として活用させていただく場合があります。

### 【銀行口座】

銀行名：三井住友銀行青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

※銀行からの寄付は、PWJの活動全般へのご支援として活用させていただきます。

※領収書が必要な場合などはご連絡ください。ご連絡がない場合、銀行振込ではご住所が分かりませんので、領収書を発行できません。

## お知らせ

認定NPO法人格を取得、PWJへの寄付が控除対象に

PWJは2010年3月、「認定NPO法人」として国税庁の認定を受けました。4月1日以降のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。詳しくは最寄りの税務署へお問い合わせください。

### 【個人によるご寄付の場合】

寄付額から2000円を差し引いた額が、所得税を計算する際に所得から控除されます（ただし、総所得金額の40%が限度）。控除を受けるには確定申告が必要です。PWJが発行する領収書を申告書に添えて税務署に提出してください。お住まいの地域によっては、住民税にも寄付金控除が適用されることがあります。

### 【法人によるご寄付の場合】

法人から認定NPO法人への寄付金は、一般の寄付金の損金算入限度額とは別に、これと同額の範囲内で損金算入することができます。

### 【相続財産のご寄付の場合】

相続または遺贈によって取得した財産を相続税の申告期限内に寄付された場合、原則として寄付金額には相続税が課税されません。

※2010年4月現在

## 総会で2009年度の事業・決算報告を承認

PWJの2010年度通常総会が4月13日に名古屋市で行われ、2009年度の事業報告と決算報告が承認されました。また、現理事6名の再任が承認され、監事には田中新吾氏に代わって清水雄二氏が新しく選任されました。

## 支援者サービスの窓

ハイチ地震の緊急募金では、発生直後から多くのご寄付をいただき、ありがとうございました。世界各地で地震などの災害が相次ぐなか、みなさまの関心は高く、「ハイチ支援のために初めて募金活動をしました」という声も寄せられました。支援の輪が確実に広がっているように感じます。

これをきっかけに、紛争や災害により困難な状況が続く世界各地での支援活動をもっと知っていただき、みなさまの思いをしっかりと現場に届けていきたいと考えています。今後とも継続的なご支援をよろしくお願いいたします。

「ナショナル ジオグラフィック 日本版」4月号の「人物ファイル」に、PWJアフガニスタン現地代表の児島淳のインタビューとともに構成した記事が掲載されました。

記事のなかで児島は、8年目を迎えるアフガニスタンでの水資源調査の難しさとやりがいについて語っています。

## メディア掲載報告

